

RNNReligious, NGO, Network
On Humanitarian Support
Since 1996世界各地で人道援助に取り組む
宗教NGO、宗教者、信仰者を結ぶ
人道援助宗教NGOネットワーク

RNNニュースレター

そよがぜ

爽やかな風を世界の人々に

発行所

国際貢献・ピア岡山構想を推進する会内

人道援助宗教委員会

委員長：西村美智雄

広報担当：永宗幸信

事務局

〒701-1212 岡山市尾上神道山2770

TEL/FAX:086-284-1242

アドレス <http://www.rnn-center.org>

RNN事務局長：黒住宗道

宗教抜きでは語れない国際協力

AMDAアジア医師連絡協議会 菅波 茂代表

AMDAには宗教と関わらざるを得ない理由があります。スタッフは25カ国の多国籍で、多言語、多宗教、多文化という多様性がAMDAの特徴です。特にスタッフの持つ宗教は実に様々で、ほとんどの宗教が見られるんじゃないかと思えるほどです。

ですから、円滑に活動を進めるためにも他の宗教に関する相互理解を深めないことには、私たちの活動は成り立たないのです。

宗教を一切無視していくことも一つの方法ですが、私たちは相互理解の方を選択しています。

宗教観といえれば少し大げさかも知れませんが、

私自身の宗教への思いを簡単に話せば、死後の世

界や魂の存在も確信していますし、宗教

から、「人のお役に立つ」ということや、「迷惑をかけない」ということなどを学ぶことは、たいへん大切なことだと思っています。

私自身も禅宗のお寺に一年間下宿したことがあり、和尚さんからいろいろ教わった経験もあります。

多国籍、多言語、多文化、多宗教…多様性



菅波茂AMDA代表と西村美智雄RNN委員長

スタッフたちは皆それぞれが、宗教的アイデンティティをバックボーンに持っています。例えば、フィリピンのスタッフとは、カトリックの理解抜きに彼らとの会話は成り立ちません。バングラデシュ、パキスタン、インドネシアのスタッフと

話しをするにはイスラム教、ネパールやインドのメンバーならヒンズー教のことを理解しておかねばなりません。

当然、救援活動においても、その地域の文化や宗教を理解しなければうまくいきません。

私たちは、活動をすればするほど、宗教に関する相互理解を深めることが必要

となってくるのです。国際協力は宗教抜きには語れないというのが、AMDAスタッフ内での共通理解にもなっています。

RNNが中心となって岡山に国際宗教文化センター設置を

このような理由からも、RNNという人道援助に関する宗教者の集まりができたことを、本当に嬉しく思っています。

AMDAは過去4年間、RNNの幅広い協力を受けてきました。このことに感謝するとともに、これまでの活動実績に基づいて、宗教の相互理解を深め、さらなる活動を推進していくための「国際宗教文化センター」構想の実現に向け、RNNの協力を切望しているところです。

このセンター構想では、次のような活動を期待しています。

- ①世界の宗教に関する図書、文献の収集
- ②世界の宗教者による社会貢献活動の紹介
- ③世界の宗教行事の紹介
- ④宗教理解のための教育プログラムの実施
- ⑤宗教プログラムの実施
- ⑥人道援助宗教ネットワークの構築と拡充です。

緊急救援や人道援助に必要な宗教面的情報を集積・管理・更新していくもので、このようなシステムが世界に先駆けて岡山に設立されればと願っています。

◇ ◇
この内容は、4月7日にカトリック岡山教会で開催された定例会議にて菅波代表がお話しされた内容をよかげ編集室でまとめたものです。

そよがぜ 小与加世

岡山で、未来の選択肢の一つに菅波ビジョンがある、と思う。人類の未来を決定する要因にNGO活動がある

のはもちろんですが、岡山ローカルがもちうる最良のビジョンが菅波提言にあった▼その要約が「西のジュネーブ・東の岡山」構想。活動の一環にAMDAやRNNがある。さらに「国際宗教文化センター」設立の構想は最小限！これを勝ち取らねばならないでしょう▼未来の可能性は理性的でなければなりません、が、より感性的であつてこそ開かれます。感性的の翼羽、エンジンを持つものが空を飛ぶことができる。その飛翔力を持つ人が菅波茂氏であり、トピア構想に参加したメンバーたちです▼可能性の多くは走りながら考え、考えながら走る中で見出される。失速は許されないが、疲れたら、協力者・仲間たちによつとの間、仕事を手渡し、休んだらいい▼信頼に足りる、良きプログラムが出来たら必ず協力者が現れる。RNNはそうしたヒューマン・リレーションの間柄にあり、時代を先駆的に走っていくものでしょう。(了)

RNN初代委員長
真言宗御室派長泉寺住職

宮本 光研

国際貢献トピックス岡山構想を推進する会発足から

RNN誕生までの道のり

昨年12月12日、岡山市奉還町の岡山国際交流センターを会場に第6回「99おかやま国際貢献NGOサミット」が開催されました。9日から12日まで4日間のサミットの日程の中で、私たちRNNは、最終日の12日に、「第4回人道援助宗教NGO会議」を開催しました。

では、今回の会議の内容を報告させて頂く前に、まず、「トピアの会・人道援助宗教委員会」「人道援助宗教NGO会議」「RNN人道援助宗教NGOネットワーク」について紹介させて頂きたいと思います。



黒住教、金光教、最上稲荷教、天理教、創価学会、立正佼成会、カトリック、プロテスタント、天台宗、真言宗、臨済宗、曹洞宗など国内の宗教者に加え、カンボジア、インド、スリランカ、フィジー、タイ、フィリピン、マレーシア、チベットなどから、宗教も仏教、イスラム教、ヒンズー教、カトリック、プロテスタントという多様な顔ぶれで、人道援助における宗教の国際協力のあり方を協議し、国際的な宗教ネットワーク構築の必要性が提言された。

平成6年に初めて開催された「94おかやま国際貢献NGOサミット」は、「国際貢献トピア岡山構想を推進する会」（「トピアの会」）が主催し、毎年1回、国内外のNGOの代表が岡山に参集して国際貢献について話し合う国際会議です。

このトピアの会は、本紙巻頭に登場されています岡山市に本部を置き、国際緊急医療支援活動に活躍されているAMDA（アジア医師連絡協議会）の菅波茂氏の提唱によって発足しました。

西のジュネーブ、東の岡山に

菅波氏の提唱した「トピア構想」とは、「医療、教育、宗教」といった福祉文化を尊重する豊かな岡山の精神風土に根ざした『思いやりの心を国際社会の人々と共有すること』を目指し、岡山に国内外のNGOの活動拠点をつくる、岡山を『西のジュネーブ、東の岡山』と呼ばれる

中国雲南省大地震支援に宗派教団を超えて協力トピアの会・人道援助宗教委員会が発足

ような国際貢献都市にしよう」という壮大な構想で、岡山に住む私たちが勇気づけるものでした。

早速、この提唱に賛同した県内のNGOやボランティア団体、企業、市民が集まり、トピアの会が組織されました。そして、その年の秋には「医療」をテーマに第1回「94おかやま国際貢献NGOサミット」が開催されたのです。

翌95年秋に開催された第2回NGOサミットは、「教育」をテーマに開催されました。そして、96年秋の第3回NGOサミットが「宗教」をテーマ

は連絡会的なものでした。

96年2月、中国雲南省で大地震が発生しました。

その時、AMDAの緊急支援の要請を受け、県内の教団や宗教者が、横に連絡を取り合いながら、緊急支援を呼びかけて総量約1万7千kgもの支援物資を集めて、AMDAを通じて現地に届けました。

この宗派・教団を超えた支援活動がきっかけとなり、トピアの会の中に宗教者の部会をつくり、これからも人道援助に力を合わせていこうという気運が高まってきました。

そこで支援活動で協力した団体をはじめ、県内の宗教者に参加を呼びかけた結果、11団体から22名の参加を得て、「人道援助宗教委員会」が発足したので

す。

なお、あくまでもトピアの会内の組織ですので、正式な名称は「国際貢献トピア岡山構想を推進する会・人道援助宗教委員会」といいますが、第3回NGOサミットで、「人道援助宗教NGOネットワーク」が構築されてからは、その英訳の頭文字をとった「RNN」を通称として使っていますので、皆さんも

通称は RNN



1996中国雲南省大地震救援物資輸送



第1回人道援助宗教NGO会議への出席者

この通称で覚えて下さい。さて、話を元に戻しますが、発足した人道援助宗教委員会の初代委員長には真言宗御室派長泉寺の宮本光研住職、事務局長には黒住氏が就任し、11月のNGOサミットに向け、2月から毎月一回定例会を開催して、準備を進めていきました。

「宗教」がテーマとされた第3回NGOサミットは海外17カ国と国内のNGO関係者らが出席して、11月23日から26日までの日程で開催され、私たちが準備を進めてきた「人道援助宗教NGO会議」はメイン会議として24日午前10時から、岡山国際交流センターの国際会議場で行われました。

国内からは、黒住教、金光教、最上稲荷教、天理教、創価学会、立正佼成会、カトリック、プロテスタント、天台宗、真言宗、臨済宗、曹洞宗などから多数の出席を得ることができました。また、海外からも、カンボジア、インド、スリランカ、フィジー、タイ、フィリピン、マレーシア、チベットなどの地域から出席して頂き、その宗教も仏教、イスラム教、ヒンズー教、カトリック、プロテスタントなどと多様で、国際色、宗派色に富んだ会議となりました。

まず、5グループに別れての活動報告や討論が行われ、最後に全体会議が持たれました。そして、参加した国内外20数団体の宗教NGOの代表らによる話し合いの結果、国際貢献において宗教を超えて宗教者たちが連携を図っていくことを願いとした「人道援助宗教NGOネットワーク」(RNN)を発足させることが決まりました。

会議の最後には、会議全般の内容がまとめられ、黒住事務局長から、RNNの構築と、その活動内容を盛り込んだステートメント(別掲)が発表、採択されました。

こうして私たちRNNの活動が正式にスタートして、以来、毎年秋のNGOサミットの主要会議として、「人道援助宗教NGO会議」を開催して、国内外の宗教NGOとの連携を深めるとともに、毎月定例会議を基盤にして、災害被災者救援のための募金活動や、また「スタディツアー」「ボランティア講座」ニュースレター・会議レポートの発行などに取り組み、現在に至っています。

なお、最近では、コソボ紛争、トルコ大地震、台湾中部大地震、インド・サイクロン、ベトナム大洪水、ベネズエラ大洪水、モザンビーク大洪水の救援募金などに取り組んでいます。国内では、JFCミュージカル公演、大阪、あいりん地区への毛布支援も実施しました。

第4回 人道援助宗教NGO会議 JFCミュージカルや万国宗教者会議を報告

97年10月に第2回、98年11月に第3回の会議を無事終えて、そして昨年12月12日に「第4回人道援助宗教NGO会議」が開催されました。

午後1時半から4時まで行われた会議では、RNN副委員長の服部大介神父(カトリック岡山教会)による開会宣言に引き続き、黒住事務局長が、デジタル静止画像プロジェクトを使用

その報告では、これまでの活動を紹介するなかで、昨年10月にフィリピン・マニラ市に本部を置くNGOのDAWN(フィリピン女性移住労働者支援の会)の依頼を受け、RNNが主催者となって県内4カ所で開催した「JFCミュージカル」岡山公演の様子が紹介されました。

「人道援助宗教NGOネットワーク」は、災害、紛争等の様々な理由で悲惨な状況にある世界の人々が個人の尊厳を失うことなく、生きがいをもって人生を歩むことができるように「相互扶助(助け合い)」の精神で人道援助を行う内外NGOによる協力体制である。本会議では「宗教NGOネットワーク」の今後の具体的なあり方、運営方法等についても多くの建設的意見が交わされ、その結果「国際貢献トピックス岡山構想を推進する会」の宗教部会である「人道援助宗教委員会」がその責任をもって必要な連絡、あらゆる情報の収集・蓄積・更新等を行い、必要とされる人道援助活動を積極的に推進・実行することになった。併せて、既存の活動を妨げることなく、一昨年の「第1回国際貢献おやかまNGOサミット」で結成された「INNED(国際人道援助ネットワーク)」と、そして国連認定NGOであるAMDA(アジア医師連絡協議会)とも常に連携を保ちながら活動を進めて行くことが確認された。

今日、われわれ人類は自然災害はもとより、冷戦終結後の民族意識の高揚による各地での紛争、南北問題の深刻化(経済危機)等による飢饉、難民の流出といった、多くの人々の基本的な人権が蹂躪される悲惨な状況に直面している。この意味からも、現地社会や地域共同体に根差したローカルNGOの活動意義はますます大なるものがある。この度設立された「宗教NGOネットワーク」を通して、われわれ宗教NGOは目前に迫った21世紀に向けて超国家、超宗派、教団の友好的な交流、協力関係を推進させ、すべての宗教が祈る世界平和と人類の幸福と安寧のために寄与して行く所存である。

公演期間中に3人の父親や家族の居場所が判明しましたが、その番組では、男の子が成田空港で父親と面会する場面もカメラに収めていました。夢に見た父親との再会……。



1999RNN宗教NGO会議で開会の挨拶をする服部大介副委員長



昨年10月に県内4カ所で開催されたJFCミュージカル

本来なら感動的な場面であるはずですが、しかし画面に映し出されたのは日本にも家族を持つているその父親のどことなく迷惑そうな様子でした。

この報告によって、出席者に災害救援や生活・教育支援に加えて、南北格差が生みだしたこうした問題にも取り組んでいく必要があるということを理解してもらうことができました。この他、会議直前の12月1日から8日まで、南アフリカのケープタウンで開催された「万国宗教者会議」の模様も紹介されました。数少ない日本からの出席者の一人であった黒住事務局長は、その分科会で「神道の基盤」Foundations of Shinto」と題して講演し、その中でRNNの活動についても紹介したことなどが報告されました。

第3回 RNNボランティア講座と 第2回 RNN青年交流会

平成12年5月14日
カトリック岡山教会



NEHA代表の辻野・P・ナオミさん

5月14日、岡山市天神町のカトリック岡山教会を会場に、「第3回RNNボランティア講座」と「第2回RNN青年交流会」が開催されました。この日は、午前10時半からの礼拝に続いて、午前11時からボランティア講座が行われ、約150人が聴講しました。

今回のボランティア講座の講師は、NEHA（ネグロス教育里親運動）代表の辻野・P・ナオミさんが務められました。辻野さんは、フィリピン中部のピナヤ諸島に位置するネグロス島のご出身ですが、18年間日本にお住まいになられているということで、関西弁交じりの流暢な日本語で講演され、16年前から辻野さんが取り組んでおられるネグロス島の貧困家庭に生まれた子供たちへの教育支援活動について、約40分間の話をされました。

食糧支援はその時限り 教育なら将来的な支援に

「私が日本に来た時、ネグロス島は、砂糖の国際価格の大暴落で、極度の貧困に陥りました。なんとかして、島を助けたらいいなという思いで、食糧や衣類を支援しました。ですが、食糧は食べればそれで終わってしまいます。私は日本には江戸時代から学校があったから、貧困に陥っても大丈夫だったと知り、ネグロス島の子供にも教育を受けさせたいと考えました。」



約150人が聴講した第3回ボランティア講座

最初は、一人の子供でいいからと、教育里親運動を始めたのですが、日本の多くの皆様の協力を頂き、メグミ幼稚園やメグミ小学校を建てることができました。現在は中学校を建設したいと取り組んでいます。

辻野さんはこのように語られながら、ネグロス島での子供たちの生活の様子をOHPを使って紹介されました。

NEHAは、黒住RNN事務局局長が代表を務めている「リコーダーをおくる会」の現地のカウンセラーパートにもなっています。辻野さんによると、リコーダーは子供たちに大変喜ばれ、他に楽器や遊び道具も少ないこともあって、リコーダー演奏に熱中し、日本の子供とは比べものにならないほど、とても上手に演奏するそうです。

7月2日には、岡山リコーダーアンサンブルの定期演奏会に合わせて、ネグロス島から6人の子供を招いて、初めてのコンサートも開かれます。その売り上げは、メグミハイスクールの建設資金の一部に充てられることになっているとのことでした。

講演の最後に辻野さんは、「この運動は私がやろうと思ったものではありません。神様の力があって、皆様の心を動かしたのです」と話され、講演を終えられました。



青年交流会で、人間競馬ゲームで盛り上がった

午後からは、第2回目となるRNN青年交流会（協賛：世界連邦岡山県宗教委員会）が開催されました。カトリック岡山教会の青年部のメンバーがホストになって、参加した黒住教や金光教の青年教師たちが3人ずつのグループに分かれて、クイズ形式での施設巡りをしたり、ゲームやアトラクションで盛り上がり、ゲームやアトラクションを超えた素敵な交流となりました。

クイズ形式の施設巡りが好評
盛り上がりを見せた交流会



クイズ形式の施設巡りはたいへん勉強になりました

2月22日、釜ヶ崎“あいりん地区”2回目の毛布支援



400枚もの毛布を届けることができました

大阪市西成区釜ヶ崎の“あいりん地区”で暮らす日雇い労働者への支援活動に取り組まれているカトリック岡山教会の服部大介神父（RNN副委員長）から、「現地のNGOから越冬のための毛布の追加支援要請が寄せられている」との情報が、1月31日に立正佼成会岡山教会で開催された定例会議で報告されました。これを受けてRNNで緊急毛布支援を実施しました。

も早く届けたいと、2月14日を締め切り、緊急募集を行ったところ、立正佼成会岡山教会など5団体から約400枚の毛布が寄せられ、22日に服部神父、同じくカトリック岡山教会の田尾さん、黒住事務局長ら奉仕者8名が、ワゴン車2台に毛布を積み込み、現地の支援組織、イエズス会司教センター「旅路の里」に搬入しました。

ちなみに、カトリック岡山教会では年に2回、継続して釜ヶ崎への衣料品支援を行っています。

ボランティアひとしめ

立正佼成会では毎年、アフリカへ毛布を送る活動に取り組まれています。川本浩司立正佼成会岡山教会外部部長の話では、毛布を支援する時は、クリーニングされていないものや、毛足の長いものは不可だそうです。クリーニングされてないと輸送中に虫がわいて腐敗したりします。また、毛足が長いとすぐに砂が入り込んで使えなくなります。使う相手の気持ちになって支援することが大切です。

▼連絡先は「〒700-0814、岡山市天神町、カトリック岡山教会、電話086(222)4093 服部神父まで。」



4月7日第49回RNNの定例会議で、菅波氏を囲む出席者

メグミハイスクール建設委員会

貧困家庭の子供のためにフィリピン・ネグロス島に中学校を建設する運動に取り組んでいます。事務局＝086(251)4558-津島氏へ

第4回RNNボランティア講座
7月3日、サンガトラ法天マナク氏を講師に迎え、RNNボランティア講座を開催します。事務局＝086(284)1242-へ

緊急支援募金報告

インド・サイクロン
ベトナム大洪水
トルコ大地震
ベネズエラ大洪水
モザンビーク大洪水
有珠山噴火

11年10月20日に発生したインド東部オッサラ州のサイクロン、11月2日にベトナムで起きた大洪水、さらには11月11日はトルコ・ドゥズジェ地区で再び地震が発生し、これらの災害に対する募金活動も同時進行で実施しました。22万4500円をAMDACに寄付しました。

昨年12月に発生したベネズエラの大洪水に対する募金活動を行い、2月10日までに寄せられた13万7744円をAMDACに寄付しました。

今年1月に発生したモザンビークの大洪水に対する募金活動を行い、2万5000円をAMDACに寄付しました。

RNNメンバーが所属する各教団で支援活動が行われました。

ソウル&メティン
プログラム

カトリック岡山教会で開催された4月の定例会議で、AMDACの菅波代表が「ソウル&メティン」プログラムを提言されました。この紹介を受けて頂きました。

「医療援助をアジア各国で展開している、未だ太平洋戦争が終わっていないという現実、常に直面させられます。現地の人にとって犠牲者は、そこで戦争を行なった日本人やアメリカ人ではなく、巻き込まれた自分たちだ」という思いを抱いているのです。日本人が慰霊に來ても、日本人犠牲者の慰霊だけを行うことに現地の人は、疎

提言

外感や違和感を感じています。この現実に対するAMDACの取り組みとして、ソウル&メティンプログラムを今年の11月から始めることにしました。プログラムの内容は、AMDACの支援先に宗教者も同行してもらい、現地の宗教者とともに慰霊行事を実施します。私たちはAMDACのスタッフは残された家族に医療を提供します。宗教者の合同慰霊行事により現地の人々の心を癒すと同時に、医療によって身体を癒してもらい、心身共に立ち直ってもらおうという願いです。宗教者の皆さんのご協力をお願いします。

RNNとしては今後の定例会議において、継続的に協議していくことにしました。

編集後記

RNNの活動の基盤となる毎月の定例会議が、5月22日の50回目を迎えました。50回という節目を記念し、決意を込めて大きな数字でもありませぬ、また、年数にすれば4年余りという短いものです。その中から様々な活動が生み出され、これまでに各種支援活動やJFCミュージカル公演など様々なことに取り組んでまいりました。国内には宗教協力をうたう教団レベルの大きな組織もいくつかあり、私たちもそれらにも参加しています。その一方で、私たちRNNのように、月に一度、たまたま少人数であつてもいろいろな宗教者が集まって顔を合わせ、そこで思いを語り合うことが、宗教協力、宗教活動が生み出されてくるんだということを実感してあります。皆さんのご参加をお待ちしております。ご意見やお問い合わせは086(222)4093(4)1242 RNN事務局までお寄せ下さい。